

「見て」「聞いて」「感じて」自分を守る。家族を守る。

ハカルワカル広場 映画会 開催

<第21回>

これはいのちの物語。

いのちの 視福の海

監督 東条雅之

今、母なる地球とすべてのいのちと繋がりを取り戻すために――

3. 11以降の生き方のヒントがここにある

5月11日(土)

10:00~12:00

ハカルワカル広場

参加費 500円



八王子市民放射能測定室

ハカルワカル広場

〒192-0053 東京都八王子市八幡町5-11 八中ビル2F

お電話
問合せ

042-686-0820

HP: <http://hachisoku.org> メール: hachisoku@gmail.com

【開室】火~金曜日:10時~15時、土曜日:10時~12時

ハカルワカル広場 案内地図 (住所:八王子市八幡町5-11/八中ビル2階)



色とりどりのいのちが暮らすこの地球（ほし）で
いのちが喜ぶ暮らしとは？ 世界とは？
平和を求める旅の中で、出会った人たちの
暮らしや言葉が紡がれて
ドキュメンタリー映画となった



…STORY…

地球の上でみんなが平和に暮らすにはどうすればいいのか——
世界を旅する中で、自分の暮らしが世界の問題と繋がっていると感じた僕は、足元の暮らしから見直そうと、塩づくりをしながら自給的な暮らしを営む一家を訪ねることにした。

同時期に出会った、山口県の瀬戸内海に浮かぶ小さな島「祝島」。
豊穡の海の恵みに支えられ、互いに助け合う地域の共同体が残る。
その島の対岸には、30年近く前から原発建設計画が進められていた。

「海をお金では売れない」と島の人たちは言う。

2011年3月11日、大きな試練に見舞われた日本。

祝島から福島へ。平和を求める旅の中で、様々な出会いを経て見えてきた、いのちを生かし合う、未来につづく暮らしや世界とは——



監督 東条雅之

1984年大阪生まれ。北海道大学農学部卒業。

2007年（22歳の頃）、アジア・アフリカの10数カ国を旅し、世界は「でっかい宝島」だと実感。

2009年、山口県で塩づくりをしながら自給的な暮らしを営む一家「百姓庵」の下で学び、山口県の瀬戸内海に浮かぶ小さな島「祝島」に出会う。海や山と共にある暮らしに感銘を受け、祝島の対岸の原発計画について知る。海の埋め立て工事が始まった現場でカメラを回し、発信を始める。

2011年、東日本大震災と福島原発の事故以降は福島にも通うようになり、いのちをテーマにしたドキュメンタリー映画の制作を決意。4年余りの歳月をかけ、「祝福（いのり）の海」を完成させる。いのちを生かし合える世界を願い、映画を上映する傍ら、自然と調和できる暮らしを模索しながら実践中。

